

2026/1/11「言葉にならない体験」使徒2:1-4

交読文・Iテサロニケ5：16-22 さ312 さ234A

成人を迎えた、其枝幼稚園を卒園された6名の方々と、お家の方々と、当時を知る幼稚園の先生方とともに、礼拝を捧げる恵みにあずかり、心から感謝して祝福をお祈りいたします。卒園された2011年度は、東日本大震災に始まり、私にとっては主任牧師、幼稚園理事長となり、結婚と新生活が始まった、まさしく激動の年度でした。あまりに大きな出来事は、かえって記憶が飛んでいるということがあります。でも、それは単なる忘れてしまった、ということではありません。忘れようとしていることもあり、あるいは言葉の範疇を超えた体験であったということでもあります。そして、その体験こそが、その人の人生なのです。

祈りの力を信じよう

3年前の成人祝福式でも、実は同じ聖書の物語を語りました。ペンテコステという風薫る初夏の教会の暦で開かれるメッセージです。ここに「若者は幻を見る」と書かれているからです。地球上に23億人といわれるキリスト教徒の始まりは、この激しい風と炎の舌から始まったのです。科学が発展した現代でも、特定の宗教を持たない12億人をはるかに超えています。中国のクリスチャンが、1億人と言われ、国単位のプロテスタントではトップです。

見えるもの、すなわち、お金や土地建物、容姿や腕力、そういうものが最終的に頼りになると半世紀前は、誰もが信じていました。しかし、時代が変わり「風の時代」と呼ばれる現代には、見えないもの、すなわち、関係性や感性、発想の転換や価値観の多様性が、人類を希望と発展に導くと、皆が信じています。そして、聖書ははじめから、教会のはじまりは、言葉にできない不思議な体験であった」と大胆に記録していることに驚かされます。

ビジョンとは、達成できる目標ではありません。同志社を創設した新島襄は、勝海舟にその壮大なビジョンを告げた時、京都の地でそんなクリスチャンの学校など簡単にできる訳がないと言われました。一体何年かかると思うのか、と聞かれた新島襄は、即答で「200年」と答えたそうです。今年同志社は150周年。夢の実現まではまだあと50年も続きます。

幻、ビジョン、祈りの力とは、そのような壮大なものなのです。人々にあざけられ、笑われ、時には批判されるものなのです。しかし、その祈りの力を信じてください。祈りをばかにする人の一人になることは、一時的には楽なことです。けれど、本当に自分を助けてくれる人は、幻を見て、祈り続ける人たちであることを、社会で生きていく中で知るでしょう。「Stay Hungry, Stay Foolish」聖霊の息吹が、私たちに、新しい力を満たしてくれます。

言葉にできない体験

ペンテコステは、AIの翻訳機能のように、世界中の言葉が語れるようになった奇跡を残しています。ドラえものの道具を手に入れたようなスマホの機能ですが、それにも関わらず、私たちはどうやって相手に気持ちを伝えたら良いのか、わからず悩んでいます。

昨年末に、清水潔先生のご長男・その実さんの洗礼式がありました。自閉症なので、洗礼を受けるための条件である「告白します」の発声や、洗礼準備会はできません。でも、20年間礼拝、祈祷会につどう姿を見れば、その実さんの信仰を疑う余地はありませんでした。洗礼式は、強い熱とサインを送って、意思を示してくださいました。言葉にならないけれど、素晴らしい体験をいただきました。そして、世界はときどき与えられる、言葉にならないけれど、本当にあった出来事で、動かされていくということを確認しました。

卒園式で覚えた、聖書の言葉は「霊の火を消してはいけません」と続いています。幼い時に知った、祈りの力を、燃やし続けてください。言葉にならない体験が将来待っています。